

2019年4月9日

Euroluce 2019 概要

【光の本質からテクノロジーまで】

2年に一度開催のEuroluceの歩みの中でも今回は、さらに新たなアプローチがあると言えるでしょう。

それは2017年の回からも変わってきており、**意匠照明 (インスタレーションも注目の一つです)** と、それらを含む空間の**建築照明**の2つに大別されます。

まず、意匠照明の展示スペースはパビリオンの大半を占めています。

特に、その中でも今年のEuroluceの注目は、『球体』と『線と幾何学形』のバランスを伴ったデザインで知られる**“Anastassiades”** <ギリシャ/キプロスのデザイナー**Michael Anastassiades** (マイケル・アナスタシアデス) から > です。

彼のデザインした照明から、他注目のものをご紹介します。

Michael Anastassiades の「**Mobile c**」、他にも**Michael Anastassiades**の作品はいくつかのスタンドから出展されています。

他に、イタリアの**Foscarini** 社 (フォスカリーニ) のために**Andrea Anastasio** (アンドリア・アナスタシオ) がデザインした照明「**Madre (母)**」。

中空の中に光源があるデザインが、胎内のイメージを彷彿とさせます。

それから、サローネサテリテ出展から見出された、ポーランドの若手デザイナー、**Zsuzsanna Horvath** (ジュザンナ・ホルヴァス)。彼女がデザインしたイタリアの**Luceplan** 社の新製品「**illan**」は、多層フィルムの中にレーザー光を施したもので、こちらも是非チェックしていただきたいと思います。

【過去を再発見する】

過去にデザインされた名作が再評価されています。例えば1963年にデザインされた**Ignazio Gardella** (イニャツィオ・ガルデッラ) の「**Arezzano a tre fiamme**」 (**Azucena** 社) や1972年の**Andre' Ricard** (アンドレ・リカルド) のテーブルライト「**Tatu**」 (**Santa&Cole** 社) など。

また過去のデザインをベースに新たなデザインも生まれています。
イタリアの**Nemo社**から1948年発売された、**Roberto Menghi** (ロベルト・メンギ)によるテーブルランプ「**Libra Lux**」、同じバランスの原理を用いてデザインされた、**Bernard Osann** (ベルナルド・オサン)の「**Bird**」が今回、同じく**Nemo社**から発表されます。このような過去のデザインを直接引用するのではなく、光源や使いやすさなど現代に合わせた仕様にアップデートしているところも、ブランドの注目すべきポイントです。

ムラノガラスの老舗ブランド**Barovier & Toso社**。こちらのクラシックなスタイルの照明に蝶を飛ばしチューリップを咲かせた**Marcel Wanders** (マルセル・ワンダース)のデザイン「**Adonis**」も要チェック。

歴史ある伝統工芸の中に現代的なデザインの可能性を見出しています。

【自然に寄り添って】

自然界からのインスピレーションはEuroLuce 2019のトレンドでもあります。
チェコ**Brokis社**の**Licie Koldova** (ルーシー・コルドヴァ)による「**Ivy**」は、植物をデザインに取り入れ、水平や垂直に伸びる木の枝を連想させます。また**Arturo Alvarez** (アルトゥーロ・アルヴァレッツ)のペンダントライト「**Aimei**」(Calor Color)は海底をイメージさせるデザインです。

そして、**Arik Levy** (アリック・レヴィ)の「**Cristal Rock Row**」(**Lasvit社**)は、自然界の持つメカニズムを探求したプロダクト。クリスタルの塊と思えない軽さを実現しました。

Cristina Celestino (クリスティーナ・チェレスティーノ)は、二つの照明プロダクトをイタリアの**Kundalini社**から発表します。植物のつぼみと莖をイメージさせるデザインです。このような自然界からインスパイアされる傾向は、現在開催中の第22回ミラノトリエンナーレでも取り上げられ、EuroLuceではさらにポジティブで詩的になっているとも言えます。

イタリアの**Catellani&Smith社**からは、ソーラーシステムの照明プロダクトが。シリコンカバーされた56個のLEDドットによる120cmのリング状のものが発表されます。

【小型化する光源パッケージで、より魅力的に】

LED光源の探求はまだ終わりません。光源のパッケージを最小化することで、小型化の照明プロダクトをつくることを可能にし、さらに多様な光の提案を実現しました。この技術は、ドイツの **Occhio 社** から発表される **Mito** シリーズ大型版の「**Largo**」フロアランプにも活かされており、同様にイタリア **Lumina 社** から発表される吹きガラスのテーブルランプ「**Tia**」は、まるで光源がないようにも見えるプロダクトです。**Massimo Farinatti (マッシモ・ファリナッティ)** がデザインした **Martinelli Luce 社** からの「**Hush**」は、防音パネルも加えられ光の質とともに、心地よさも提供しています。**Firmamento Milano 社** からの **Michele Reginaldi (ミケーレ・レジナルディ)** デザインによる「**XLight**」は、光源がミニマルであるものの、高さ187cmのものが二重になっていて、まるで住宅向けの光る彫刻。光源がさりげなく施され、アーティステックな照明器具です。

このLED光源パッケージの最小化が効率をさらに向上させ、ドイツの **Tobias Grau 社** の「**portable Parrot**」や「**Salt&Pepper**」のような驚くべき照明プロダクトが生まれています。なんと、コードレス照明で100時間持続するバッテリーを保持しているのです！

そして、「シーリングライトの配線問題 (リアルなコロンブスの卵)」という永遠のテーマの解決策が、**岩崎一郎**のデザイン考案でスペインの **Vibia 社** からの「**Tube**」システム (イギリスの地下鉄からのネーミング) によって発表されます。それは、一箇所の電気接続ポイントから、至るところまで配電できるという接続管システムです。

Salone del Mobile.Milano Japan Press PR 山本幸 yuki@milanosalone.cm

Salone del Mobile.Milano Press Office :

Marva Griffin Wilshire – Patrizia Malfatti press@salonemilano.it